

議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	令和6年2月5日(月) 18:30～19:40
場 所	Web会議
出 席 者	森根会長、川人部会長、寺嶋副部会長 乾委員、青井委員(徳島大学病院) 片岡委員(県立中央病院)、安藤委員(県立三好病院) 石倉委員、町田委員(徳島赤十字病院) 多田委員(徳島市民病院)、米川委員(患者会)、岩下委員(県薬剤師会) 延委員(吉野川医療センター)、花岡委員(県立海部病院) 林委員(県看護協会)、荒瀬委員(近藤内科病院)、鎌村委員(徳島県保健福祉部) 中谷委員(県医師会)、上田委員(県歯科医師会)
欠 席 者	山村委員(徳島県鳴門病院)、藤原委員(阿波病院)、豊田委員(県医師会)、 野口委員(徳島県介護支援専門員協会)
陪 席	徳島大学病院：横田副看護部長、尾形看護師長、池田専門医療係長、 宮越技術補佐員 徳島県保健福祉部：浅田主事、山田主事 徳島赤十字病院：高木氏 徳島県立海部病院：舛田氏
議 題	森根徳島県がん診療連携協議会会長から、緩和ケア部会参加へのお礼の挨拶があった。 川人部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会がWeb開催された。
【報告事項】	1) 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会報告(報告資料①) 川人部会長から、令和5年12月8日に国立がん研究センターで開催された「令和5年度第11回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、別紙資料に基づき次のとおり報告があった。議事次第のとおり当日はWeb開催された。厚生労働省健康局がん・疾病対策課より第4期がん対策推進基本計画概要について説明があった。①第4期がん対策推進基本計画が令和5年3月28日閣議決定予定された。②全体目標は、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」である。がん医療の分野別目標として、がんと診断された時からの緩和ケアの推進について療養生活の質の向上を目指す。である。③がんとの共生として、社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援④取り組むべき施策は、

精神心理的苦痛や社会的苦痛に対する適切な支援が全ての医療従事者により提供され、また、必要に応じて緩和ケアチームとの速やかな連携が図られるよう、医療従事者への普及啓発策等を含め、必要な体制の整備を推進する。拠点病院等を中心に地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護を担う機関と連携した、在宅を含めた地域における緩和ケア提供体制の整備を推進する。④終末期医療を受ける場や療養場所の決定に至る意思決定及びこれらの場所における終末期医療の実態等について研究を行い、適切な療養場所の提供及び治療やケアの質の向上について検討する。⑤緩和ケア領域のロジックモデルの推進。⑥難治性疼痛等への対応に関する連携。⑦緩和ケアにおける介護施設との連携。⑧専門的がん疼痛治療に関する地域連携のためのコンサルテーション。以上のような内容から、拠点病院等と地域の医療機関とが連携をして相談支援、緩和ケア等の取組を推進し、積極的な患者や家族等への支援を実践することが必要である。

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会資料については
https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/p_care/shiryo11/index.html (参照))

2)各病院の現状報告(報告資料②)

各委員から別紙資料に基づき各施設の現状報告があった。

(徳島大学病院 乾委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームの活動は、資料を参照していただきたい。今年度、4月から12月までの期間で、緩和ケアチームへの新規依頼数は105件で毎月10件程度の依頼があり、血液内科、呼吸器内科、婦人科、消化器内科からの依頼が多い。緩和ケア診療加算179件、延べ患者数552件である。苦痛のスクリーニングシートは1614件となっている。緩和ケア外来数は73件、緩和ケアチーム介入の口腔ケア患者数は104件であったとの報告があった。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：今年度の4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は72件であり、前年とあまり変わりはない。依頼診療科は消化器外科、乳腺外科からである。緩和ケア診療加算件数については223件となっている。医師も専任で行っており、前年より少し増えている。苦痛のスクリーニングシートについては少し増加し429枚であった。緩和ケア外来と緩和ケアチーム介入の口腔ケアについては件数を示すようなシステムをしておらずデータはないとの報告があった。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：2023年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は103件である。外科、消化器内科、整形外科からの依頼が多い。緩和ケア診療加算件数976件となっており、苦痛のスクリーニングシートについては、1329件となっている。緩和ケア外来数169件、介入の口腔ケ

ア入院患者数は53件、退院後連携は6件となっているとの報告があった。

(徳島市民病院 多田委員)

別紙配布資料参照：2023年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は76件となっている。令和5年11月から緩和ケア病棟を再開したため、介入が増えてきている。緩和ケア診療加算の算定について175件とそれほど増加はない。現在も少ない状況である。苦痛のスクリーニングシートについても363件であるが、他の職種が対応しており緩和ケアチームの介入はない。口腔ケアについては、もう少し増やしていきたいとの報告があった。

寺嶋委員から、徳島県歯科医師会と口腔ケアについては行っているのかとの質問があった。

多田委員から、徳島市民病院では歯科医師を採用しておらず、徳島県歯科医師会より派遣いただいている。今年度から、少し件数も増加してきているとの回答があった。

(徳島県立三好病院 安藤委員)

別紙配布資料参照：2023年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は62件、依頼診療科は消化器内科、呼吸器内科、外科であった。緩和ケア診療加算は98件、緩和ケア外来297件である。苦痛のスクリーニングシートは1352件となっている。緩和ケアチーム介入の口腔ケア患者はいない。訪問診療として来ていただいているとの報告があった。

(阿南医療センター 寺嶋副部長)

別紙配布資料参照：2023年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は85件、依頼診療科は消化器内科、消化器外科、呼吸器内科であった。緩和ケア診療加算は185件、緩和ケア外来347件である。苦痛のスクリーニングシートは3件となっている。がん化学療法の認定看護師が今年度増えたため、次年度からは少し増える予定である。緩和ケアチーム介入の口腔ケア患者数は1件となっているとの報告があった。

(近藤内科病院 荒瀬委員) (注：統計は年度でなく年間)

別紙配布資料参照：2023年/2022年/2021年の実績について病棟稼働率は84.3/82.6/82.2%と少し上がっている。平均在院日数は30.5/31.6/33.4日と少し日数が短くなっている。部位に関しては悪性リンパ腫が多い。新規入院患者数210/189/180人と増加している。紹介元はがん診療連携拠点病院からが多い。新規退院患者数、死亡退院数は昨年より少し増えている。面会制限をせざるを得ず、感染状況に応じて予防対策を緩和しており(3親等以内に限らず、感染予防策をして面会は20分、病室内2名まで1日計5名まで)、長時間面会や付き添いは抗原検査が必要との報告があった。

(徳島県立海部病院 花岡委員)

資料では示していないが、当院での緩和ケアチームの活動内容として主治医から依頼や相談があればラウンドを行っている。また、チームで勉強会を実施しているとの報告があった。

(吉野川医療センター 延委員)

緩和ケアチーム活動報告として、令和5年度のコンサルテーションは昨年の半数で10名となっている。減少理由は、担当していた河南医師が令和5年4月に異動となったためである。がん患者指導管理料イが12件、ロは0件である。公認心理師もいるが算定出来ていない。今年度の活動として、医療用麻薬レスキュー薬の自己管理マニュアルを作成した。現在は実施には至っていないが、今後は院内で広めていく予定である。令和5年11月30日に人生会議の日として、もしバナゲーム体験会を開催した。ACPについて理解いただいたとの報告があった。

3) 緩和ケア研修会報告について

川人部会長から、2023年度開催された緩和ケア研修会の報告があった。

- ① 徳島県立中央病院は令和5年6月18日に開催を行った。当日の参加者は23名であった。
- ② 徳島大学病院は令和5年7月23日に開催を行った。当日の参加者は21名であった。
- ③ 徳島赤十字病院は令和5年8月20日に開催を行った。当日の参加者は22名であった。
- ④ 徳島市民病院は令和5年9月10日に開催を行った。
- ⑤ 徳島県立三好病院は令和5年11月11日に開催を行った。当日の参加者は13名であった。

4) エルネック研修会報告について

林委員からエルネック研修会について今年度は徳島県立中央病院が主催で、会場は徳島県立三好病院で開催したとの報告があった。

片岡委員から、今年度は徳島県立中央病院が担当で徳島県立三好病院と共催して開催を行った。

- ① 令和5年10月22日、11月5日の2日間で開催を行った。1日目はZoom講義、2日目は集合でグループワークを行った。修了者は11名である。
- ② 以前より県西部での開催を希望されており、徳島県立三好病院で行った。参加者の方には、休憩時間を利用して徳島県立三好病院の緩和ケア病棟を見学し、好評であったとの報告を受けている。

5) 徳島県民がんフォーラム開催報告について(報告資料③)

川人部会長から、徳島県民がんフォーラム開催について報告があった。

- ① 令和5年10月29日に大塚講堂にて開催した。
- ② 応募は394名、当日参加は292名であった。
- ③ 内容として、徳島がん療養サポートブックの案内や、サイコオンコロジー、神経ブロック、

栄養サポートであった。また、かさまつ在宅クリニックの笠松院長から、意思決定支援について講演を行った。

④来年度についても、徳島県民がんフォーラムの開催を行いたい。

6) 令和5年度徳島県緩和ケア研修事業followed up研修会のご案内について(報告資料④)

寺嶋副部門長から、令和5年度徳島県緩和ケア研修事業followed up研修会の案内があった。

①毎年、徳島県医師会の受託事業として緩和ケア研修事業followed up研修会を開催している。

②今年度は令和6年2月17日(土)13:00~16:00、徳島県医師会館4階研修室にて開催予定である。

【協議事項】

1) 来年度の緩和ケア研修会について

川人部会長から、来年度の緩和ケア研修会も今年度通りの順番で開催を行うのでよいかとの意見があった。

片岡委員から、その予定でお願いしたいが、病院内の工事の関係で会場の予約が未定であるため、決定次第、連絡するとの意見があった。

多田委員から、徳島県立中央病院の開催予定が遅れるようであれば、徳島市民病院が先に開催を行うのでもよいが、早めに連絡をいただきたいとの要望があった。

安藤委員から、当院の開催は土曜日に行っている。来年度も土曜日開催を行いたいとの意見があった。

その他の病院については、通常通りの開催時期で了承された。

2) 緩和ケアの神経ブロックのできる施設について(協議資料⑤)

川人部会長から、都道府県がん診療連携協議会でも話題となっており、現在は現況報告にも項目として取り入れられている難治性がん疼痛に対する神経ブロックについて、各病院の現状を調査した。協議資料⑤に記載されている病院以外でも現在徳島県内で診療可能な施設は、保岡クリニック等があるとの発言があった。

片岡委員から、当院では当院で治療中の患者さんを対象に対応している。先日、在宅医から神経ブロックの相談を受けたが、麻酔科外来などをしていなかったため、受け入れできなかった。県内の在宅医等からの受け入れが出来るような体制が出来れば、レベルアップに繋がるのではないかとの意見があった。

寺嶋副部会長から、当院でも昨年徳島赤十字病院に依頼を行ったが、麻酔科の湊医師に繋いでいただき、日帰りで治療していただいたため、非常に良かった。県内で情報共有する場があればいいのではないかとの意見があった。

町田委員から、当院では火・水曜日にペインクリニック外来を行っている。紹介状を持参いただき、神経ブロック可能かどうか判断し入院か日帰りの対応を行っている。詳細については

令和5年10月発行の日赤だよりに掲載しているとの説明があった。

川人部会長から、今後も情報共有しながら進めていきたいとの意見があった。

3)緩和ケアにおける介護施設との連携等について(協議資料⑤)

寺嶋副部会長から、今回の診療報酬・介護報酬改定では具体的に介護施設等との連携が重要になってくるのではないかと。施設側からも対応しようとするところが増えてくるのではないかと。意見があった。その他に、緩和ケアについても何か情報を聞いていないかと。質問があった。

中谷委員から、介護施設等ではまだそこまでの話題にはなっていない。福祉施設や介護保険施設ではメインとして人手不足が問題となっている。神経ブロックについても、施設間の送迎等がどこまで可能かなど懸念しているとの意見があった。

【その他】

寺嶋副部会長から、その他ご意見はないかとの要望があった。

岩下委員から、緩和ケア研修会の参加について案内は行っているが調剤薬局の薬剤師からすれば少しハードルが高いようで参加は少ない。研修会なども開催して参加を募りたいとの意見があった。

上田委員から、今回の会議は興味深い。緩和ケア研修会についても持ち帰り徳島県歯科医師会の役員で相談したい。また、徳島市民病院については口腔ケアで訪問診療を行っている。多田委員からの紹介もいただいているが、緩和ケアチームの介入があるかどうかまでは把握していない。口腔ケアの件数は多いとの意見があった。

米川委員から、能登半島地震により非衛生的な問題が上がっており、現状はどうか現場に入られた方がいたら情報を教えていただきたい。患者会代表でもあるが、オストミー協会の支部長もしており、お腹に取り付ける装具がよく変わりトラブルが多く、また単価も高くなっている。補助金は定額のままであるため、今後は県に陳情を行う予定である。先生方には質問があるかもしれないが、協力をお願いしたいとの要望があった。

川人部会長から、各病院から能登への支援は行っているが、今後また情報など共有していきたいとの要望があった。

川人部会長から、各病院や施設から取組みなどについて報告や検討を行った。本日のオンラインでの徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会の開催、ならびに参加いただいたお礼と閉会の言葉があり閉会となった。